

国際広報メディア専攻

平成 20 年度
前 期

日本語論述

13:30 ~ 15:30

解答上の注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題紙を開いてはならない。
- 2 問題紙は、この紙を含めて 3 枚ある。
- 3 解答用紙（25 字×40 行=1000 字）は、2 枚ある。
- 4 解答用紙は、2 枚とも必ず提出すること。
- 5 受験番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 6 選択した問題番号は、すべての解答用紙の指定された個所に必ず記入すること。
- 7 解答は、すべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
- 8 下書き用紙は別途配布されるが、問題紙の余白を下書きに使用してもさしつかえない。
- 9 問題紙および下書き用紙は持ち帰ること。

以下の問題 1～4 のうちから 1 題を選択し、1600～2000 字の日本語
(横書き)で解答しなさい。

【問題 1】

2008 年 7 月に G8 サミットが北海道洞爺湖で開催される運びとなった。そのことを受け、G8 サミットを機に、北海道大学を世界的にもっと認知させるための広報戦略が求められている。あなたは北海道大学の広報担当者であると仮定して、あなた自身が考える広報戦略を論じなさい。予算上の制約等は考えずに自由に論じてください。

【問題 2】

次に引用した文は、落語の魅力をそのライブ性に見ている立場から書かれたものである。「さまざまなメディアによる楽しみ方」が劣位に位置づけられているこの見方に対し、メディアによる記録の意義を擁護する立場から、この見方を批判的に論じなさい。

(略)

八木忠栄『落語はライブで聴こう』(新書館、2005)

【問題 3】

日本の人口に占める外国籍の人々の割合は年々増加し、法務省によれば平成 17 年末で 1.57%、100 人に一人以上となっている。また、少子高齢化による労働力人口の低下から、現在の日本の経済力を維持するためには、今後ますます外国籍の人々を労働力として受け入れていく必要があるという指摘もあり、より一層の多文化化が進んだ多文化共生社会が検討されている。

このような現状を踏まえ、来るべき多文化共生社会について、さらにはそのような社会におけるメディアの役割について、あなたの考えを論じなさい。

【問題 4】

ある国や地域でバイリンガル教育政策を行うと仮定します。その際、「どのような言語的背景の社会で、 どのような言語を教育用言語として採用して、 何のためにバイリンガル教育政策を行うのか」という三つの要素に言及しつつ、具体的なバイリンガル教育政策のパターンを二つ以上考えなさい。そしてそれぞれのパターンについて、バイリンガル教育政策がもたらすと想定される負の側面を多面的な角度から論じなさい。